

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿とは？」

2020.10.30 大分県教育委員会



運動会本番。「はいっ！ Tちゃん！」



「ほら来たよ、手伸ばして、少し動いて」



「バドンは手を伸ばして走りながらもらおう。」



「Tちゃん、8番目頑張って！」「うん。」

# CASE 20

5歳児



みんなの走る順番が決まった後もS児とT児がまだ決まりません。「二人は、自分のことを「たぶん得意」と言います。「じゃ、どちらにす  
る?」「ジャンケンにする?」「走ってみた方がわかるんじゃない?」と、話し合いで実際に走ってみることになり、先にゴールしたのはT児。「じゃ、Tちゃんが8番、Sくんが4番。」とみんなの順番が決定です。「Tちゃん、がんばってね!」と、すぐにT児を応援する子もいました。

走順の作戦を考えたみどりチームですが、なかなか1番になれません。「一番で差をつけられたら追いつけない。」と、M児の考え方からスタートを決め直したり、ミニボードに名前を貼つて走る順番が分かるようにしたりと、勝てる方法を考えていきました。

運動会練習の合間や給食後の遊びの時間、リーダーを中心て自分たちで集まつてリレーを繰り返すみどりチーム。1回でも勝たせてあげたいと担任は、「先生と秘密の練習しない?」と呼びかけ、秘密の練習場所へ移動します。「リレー、よく練習してるね。勝ちたいよね。一つの方法だけどやってみる?」と切り出すと、「うん。秘密の方法やってみる。」元気いっぱいの子どもたち。そこで、担任が、バトンは、手を伸ばすと受け取りやすいこと、少し助走をするとぶつからないことをやつて見せると、子どもたちはバトンパスの工夫に気付いたようです。

そして、2人組を作った子どもたちは、バトンをもらつたり渡したりしてホールの中を走りまわります。自ずと手を伸ばしたり、助走をしたりしてバトンの受け渡しを楽しみます。「〇〇ちゃん!」とバトンを渡す友達の名前を呼んで渡そうとしている子もいました。

「先生、外でやつてみたい。」と実際のトラック上で試したい子どもが声に一緒にグランドへ移動します。ビブスを着用し走順どおりリレーが始まります。走り終えた子や順番を待つ子は、「ほら来たよ。手出して」「少し走つて」と、次に走る友達のそばで声をかけます。秘密の練習をすぐに活かし、声をかけ合い協力する姿が見られました。グランドでは、他のチームも練習を始めて4チームが揃いました。担任が「最後の競争してみる?」と尋ねると、2チームは「する、する」と積極的。みどりチームを含めた残りの2チームは、「大事な秘密があるんだ。本番まで見せたくないから今日は競争しない。」と、教えて勝負せず、本番に挑みたい思いを語ります。みどりチームは、手に入れた走順やバトンパスの秘密の作戦を他のチームに見せたくなかつたのでしょう。中でもリーダーの子は、「しない、しない。」と連発していました。担任は子どもたちの思いを尊重して、「じゃ、勝負は本番の運動会でしょう!」と、練習最後の日を締めました。

そして、とうとう本番、運動会の日。表現もかけっこも終わり、いいよりレー。入場門に「チーム」と並びました。今まで一度も勝つことのないみどりチーム。「今日は、勝ちたいね。」「うん。がんばる。」「絶対勝つ!」子どもたちが声をかけ合っているところに、担任もかけつけみんな一緒に「エイエイ、オー!」と声をあげました。

スタートは、好調だったみどりチームは、いつの間にか下位になってしまいました。それでも、手をのばしたり、名前を呼び合ったりしてバトンを渡し、子どもたちは自分の番が来ると一生懸命走っていました。走った後は、声をからして友達の名前を呼びながら応援していました。

しかし、本番でも勝つことができなかつたみどりチーム。「頑張ったのに・・・」と悔しそうな子どもたち。「一番じゃなかつたけど、みんな頑張つてたよ。格好よかつたよ。」と、みどりチームをねぎらう担任。この言葉に少し笑顔を見せたM児。涙を浮かべて悔しがつたT児。様々な思いを残してみどりチームのリレーは終わりました。

運動会明け、クラスでは新しいグループ作りがありました。ところが、みどりチームは、「チームを解散したくない。」「まだまだ練習して、赤チームに挑戦したい。」と思いを話しました。担任は、「新しいグループになつてもリレーの時は、またみどりチームになればいいんじゃない?」と、グループを行き来しながら遊ぶことを提案しました。新しいグループの友達と遊びを楽しみながら、みどりチームに戻つてまたリレーを楽しむ姿が見られる2学期後半になりそうです。

「おじさんへ、

解散したくないよね！」

協力園  
別府大学  
附属幼稚園

## 健康な心と体・協同性 環境構成のポイント

- ・練習や走順などの作戦を子どもたちに任せ、自発的な行動を尊重するリレーのねらいの設定。
  - ・共通の目的をもち、実現のために一緒に練習したり、作戦を考えたりする友達の存在。
  - ・チームの状況を把握して作戦の援助や、努力を認めたり励ましたりする担任の存在。
  - ・いつでも練習できるような環境構成（バトン、笛、ピラス、グランドの白線、走順を書くミニボード）

協同性

## 事例から見られる1の育ち 健康な心と身体

るい結関発どか す援達 るを教 ムでを共  
。束係揮もつ「るしのま 教え勝のり話通一  
「力をしたた勝たた名だ、 えてて走ししのり  
のを作、ちもつめり前 合もな力！合自レ  
言強つおはの「にしを競 いらくをのい的！  
葉めて互、のと協て呼技 、つて伸練でので  
に「きいー、い力、ん中 協た悔ば習決実勝  
繫解たの人りうす共だも、 力バしそをめ現ち  
が散。よーレ自る通り すトいうしたにた  
つしそざ人！的姿の手走 るン中とたり向い  
たたのをがのはが目を 姿パ、しり、「か。  
とく充認持練実あて叩 もス担てし自つ  
思な実めち習現るをいい 見の任いて分てと  
わ 感合味でで。実てる ら方かるチた走い  
れがうを子な 現應友

運動会のリレーを前に、練習時間を使つて走つたり、バトンパスを楽しんだりして体を十分動かせている。走ることが、チームの走力アップ、リレーに勝つことに繋がることを見通し、さらに期待もして練習を重ねてきたと思われる。また、他チームと競争する楽しさや悔しさを経験することから、勝つにつながるように自ら体を動かし練習する心と体の育ちの姿が見られる。

# 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 「10の姿」

思考力の  
芽生え

言葉による  
伝え合い

健康な  
心と体

量や図形、標  
や文字などへ  
の間も感覚

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。